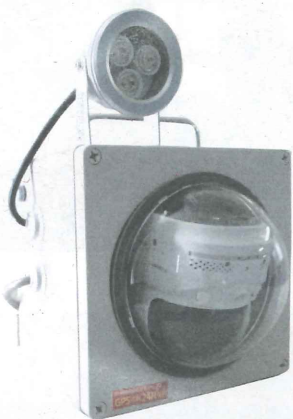


IoTを防犯・セキュリティに活用 住宅、ホテル、工事現場まで

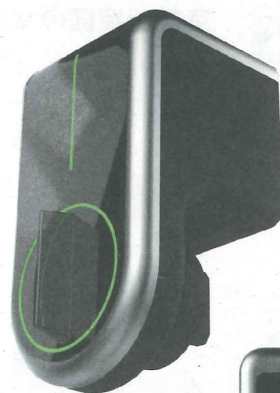
建材トレンド

IoT × 防犯

インターネットを活用したIoT技術は、防犯・セキュリティでも使われ始めている。住宅、オフィス以外にも民泊施設やシェアオフィスなどでも活用が期待される。



(左)現場に行かなくても遠隔で状況を確認可能
(右)室内タイムの見守りカメラ
画像提供:吉田東光



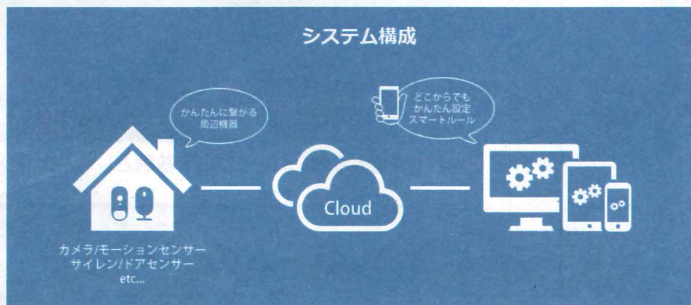
(上)スマートフォンで解錠・施錠ができる
(右)暗証番号の入力や非接触ICカードをかざしてキーレスで解錠・施錠ができる
画像提供:ライナフ



日本ロックサービスが発売した「TAGURI@HOME」



画像提供:日本ロックサービス



クラウドを通じて機器とモバイルアプリが連携する

既存のドアを電子錠化するスマートロックは、スマートフォンなどと無線通信して解錠・施錠ができる。インターネット上でカギをシェアすることが出来るタイプでは、合鍵が不要になる。物件の内覧では電子キーをネット上で受け渡すことでスピーディーな予約受け付けや、カギの紛失リスクの解消など、防犯だけでなく業務の効率化も図れる。

工事現場で活躍する

既存のドアを電子錠化するスマートロックは、現場に設置すれば、スマホやパソコンでライブ映像が見られる。遠隔操作で、現地に行かなくても状況をチェックできる。夜間も赤外線確認できるため、24時間現場の監視も可能。室内タイプもあり、飲食店、店舗、介護施設、ペットの見守りなどにも活用できる。

さらに、ユーザーのライフスタイルに合わせて、人感センサー、防犯カメラなど各種デバイスを自由に組み合わせつつ、IoT製品も登場している。監視カメラ、マグネットセンサー(ドアセンサー)、サイレンなどを展開するコンベネーション防犯。これら

今のドアの鍵の上から、そのまま取り付けられる



の周辺機器がクラウドを通じてモバイルアプリとなり、外出先からスマートフォンで操作ができる。錠前の開閉、照明の点灯など、家電製品との連携もスムーズに行える。住宅業界に広く提案が可能だ。